

台東区区民憲章策定区民会議  
第4回班別会議 3班 議事概要

日時：平成17年12月9日(金) 19:00~21:00

場所：台東区役所602会議室

1. 将来に向けて実現したいもの、誇りたいもの

- ・ 「将来に向けて実現したいもの、誇りたいもの」について、各メンバーがその場でポストイットに意見を記入の上、模造紙に張り出し、討議を行った。
- ・ 討議を行う過程で追加が必要となったキーワードについても、随時追加しつつ検討を行った。 詳細については別紙参照。

2. 区民憲章に盛り込みたい内容・言葉

「将来に向けて実現したいもの、誇りたいもの」を端的に表すキーワード

< 「将来に向けて実現したいもの、誇りたいもの」を端的に表すキーワードの例 >

「おもてなし」 「思いやり」 「いたわり」 「にぎわい いきいき」  
「潤い」 「下町」 「庶民」 『ゲスト』から『ホスト』へ

- ・ 「おもてなし」という言葉がよい。台東区では、既にITを活用した観光案内など「おもてなし」の取り組みや実証実験が行われている。今後、さらに観光客を集めるためには、「おもてなし」の体制を整えることが台東区の特筆すべき取り組みとなる。
- ・ 「もったいない」など、日本独特の言葉の方が、インパクトがある。「助け合い」よりも「思いやり」の方が日本独特の感覚を表現しているように思う。特に、台東区には、ちょっと黴くさくなったような日本語が似合う。「いたわり」という言葉も心に響く。
- ・ 商店の活性化や祭りや賑わいなどを表現する言葉「にぎわい いきいき」も必要ではないか。「祭り」だけだと対象が限定される。
- ・ 「潤い」という言葉もある。
- ・ やる気やイメージを喚起する言葉としては、日常生活や会話の中で何気なく使っている言葉の方が親しみもありふさわしい(「下町」「庶民」など)。
- ・ 以前、障がいを持っている方から、「自分たちは、『ゲスト』ではなく『ホスト』になりたい」ということを聞いた言葉が忘れられない。「主体」という言葉を使うよりも心に伝わってくる。「ゲストからホストへ」という言葉がよい。
- ・ 言葉の持つ意味は、個々人により捉え方が違う。

三輪委員よりアドバイス等

区民憲章に盛り込むべき「言葉」を考える上でのポイント

- ・ 思いや気持ちを区民憲章の前文と本文のどちらに盛り込むべきかを意識することに

より整理もしやすくなるものと思われる。

- ・ 台東区民が発する「自然」「産業」「歴史」といった言葉は、他地域の市民による言葉の持つ意味合いとかなり異なる。台東区は、他地域と比較して、どのような言葉を大切にしなければならないだろうか。
- ・ 区民憲章は、抽象度の高い短い言葉で表現することが多いため、現実的な訴求力を疑問視する声が出てくる。しかし、抽象度が高い言葉は、人によって様々な解釈が可能となるという側面も持つ。読む人が実践活動、内容を喚起されるような「言葉」を考えていってはどうか。
- ・ 今後実施する区民アンケートやパブリックコメントを成功させるためにも、この区民会議で、大切にしたい言葉を十分に議論しておきたい。

#### 区民憲章に求められる表現

- ・ 憲章というと、「固い」イメージが拭えないので、わかりやすい言葉の方がよい。
- ・ これから成人式を迎えるような世代に受け入れられる区民憲章であってほしいが、そのための表現を考えることは難しい。
- ・ 区民共通の憲章にすることが最終目的である。そのためには、これから区民の意見をお聞きする機会を設けることが重要である。

#### 区民憲章の持つ可能性

- ・ 台東区の中で活動を行っていても、知られていない市民活動が数多くある。区民憲章の策定を契機として、このような隠れた草の根運動が表面化し、市民活動全体が活性化する可能性もあるのではないか。
- ・ 台東区には、実践活動を行う大衆芸能などのグループも数多くある。区民憲章に基づく実践活動の段階では、こうした既存団体と連携していくことも想定される。

#### 三輪委員よりアドバイス等

- ・ 水沢市は、地区ごとに異なる実践活動を行い、毎年度、全体で報告会を行って、実践活動を共有している。台東区も町内会ごとに、地区ごとに特色ある実践活動が行われるのではないか。

### 3. その他

- ・ 年明けに全体会を開催する予定である。

(以上)